

■EU：EU-ETSによる2016年の排出量は2.4%減

2017年4月2日、EU-ETS（EUのCO₂排出権取引制度）における個別施設からの2016年の排出量データが公表され、環境NGOがとりまとめ結果を公表した。これによると、ETS全体の排出量は前年より2.4%減少となる17.59億tで、2005年の制度開始以降の傾向（年間2.6%減少）に沿ったものとなった。この主な要因は石炭火力からの排出量の減少（11%）で、石炭火力からガス火力へとシフトが進んだと分析されているが、排出権価格は2016年を通じて1t当たり5ユーロ程度で推移しており、燃料転換の進展はガスと石炭の燃料価格の差異によるものである。個別各国の石炭火力からのCO₂排出量は英国、スペイン、ギリシャの排出削減幅が大きく、それぞれ58%、27%、21%減少したが、排出量の大きなドイツとポーランドの排出削減は4%、1%にとどまっている。なお、制度全体での排出削減量（2.4%）が排出枠の減少量（1.74%）を上回ったことから余剰排出枠が増加し、30億tを超えたと分析されている。